

保護者様

横浜市立南戸塚中学校

校長 鈴木 博道

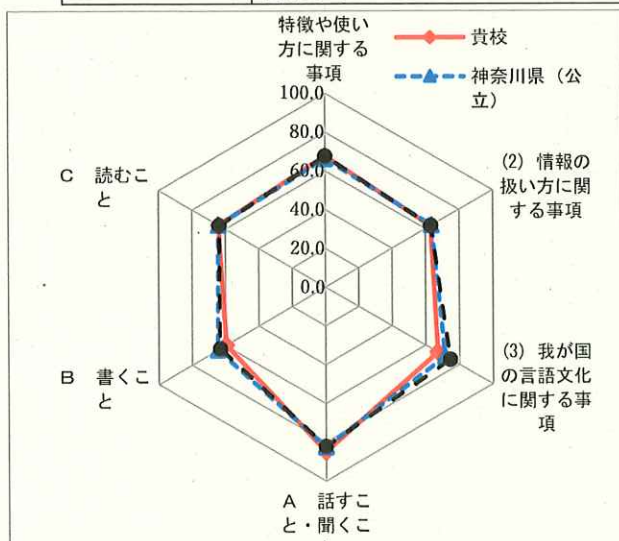
全国学力状況調査の結果について（報告）

仲秋の候、保護者の皆様方におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、4月に実施いたしました全国学力状況調査について文部科学省より結果のデータがまいりました。本校の結果について、考察とともにお知らせいたします。

【国語】

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			貴校	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体		15	69	70	69.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	67.7	66.3	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	63.1	63.7	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	67.4	71.7	74.7
	思考力判断力表現力等	A 話すこと・聞くこと	84.9	82.5	82.2
		B 書くこと	59.6	64.6	63.2
		C 読むこと	64.0	64.2	63.7
評価の観点	知識・技能	7	66.3	67.9	69.4
	思考・判断・表現	9	70.0	70.4	69.7
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	7	76.0	73.9	73.1
	短答式	4	58.5	63.3	65.6
	記述式	4	65.6	68.1	68.0



全国・県の平均値より全体の結果は若干低い状況と言える。

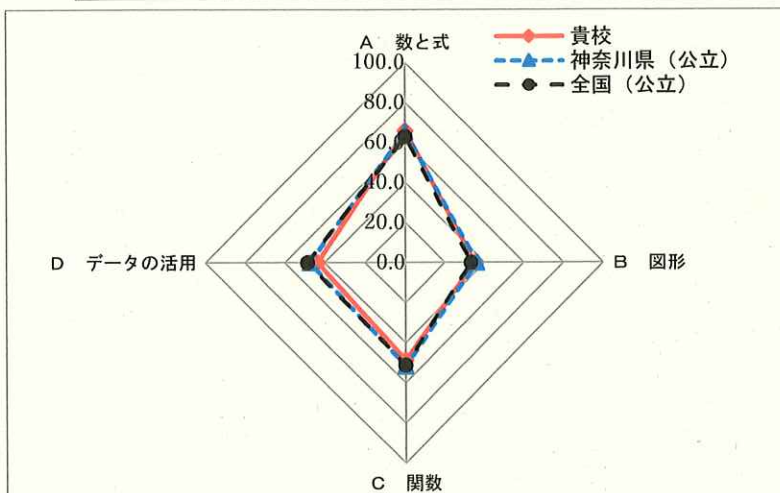
「話すこと・聞くこと」に関する事項については全国・県の平均よりも2ポイントほど高い数値を示している。一方で「書くこと」に関しては、全国・県の平均を3ポイントほど下回っている。「読み手の立場に立って文章を推敲する」「自分の考えが伝わる文章になっているか」などの力が弱い。「我が国の言語文化に関する事項」も全国・県の平均を3ポイントほど下回っている。それに伴い「知識・理解」も全国・県の平均を2ポイントほど下回っている。「読むこと」に関しては、全国・県の平均とほぼ同程度である。

「国語への関心等」は全国・県の平均を上回っており、授業に対する姿勢は前向きであると言えるが、内容の定着については改善が必要である。他者に意見を伝えていくうえで必要な知識や表現の仕方を身につける学習、さらに、状況に応じた語彙を選択することができることも学習の目標としていきたい。

内容の定着については改善が必要である。他者に意見を伝えていくうえで必要な知識や表現の仕方を身につける学習、さらに、状況に応じた語彙を選択することができることも学習の目標としていきたい。

【数学】

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			貴校	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体		15	51	52	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	65.7	65.2	63.0
	B 図形	3	35.0	36.1	33.2
	C 関数	4	48.8	51.7	51.2
	D データの活用	3	43.5	47.4	48.5
評価の観点	知識・技能	10	54.6	56.6	55.7
	思考・判断・表現	5	42.6	43.4	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	42.6	46.7	45.3
	短答式	6	62.6	63.3	62.6
	記述式	5	42.6	43.4	41.6



全国・県の平均値より全体の結果は若干低い状況と言える。

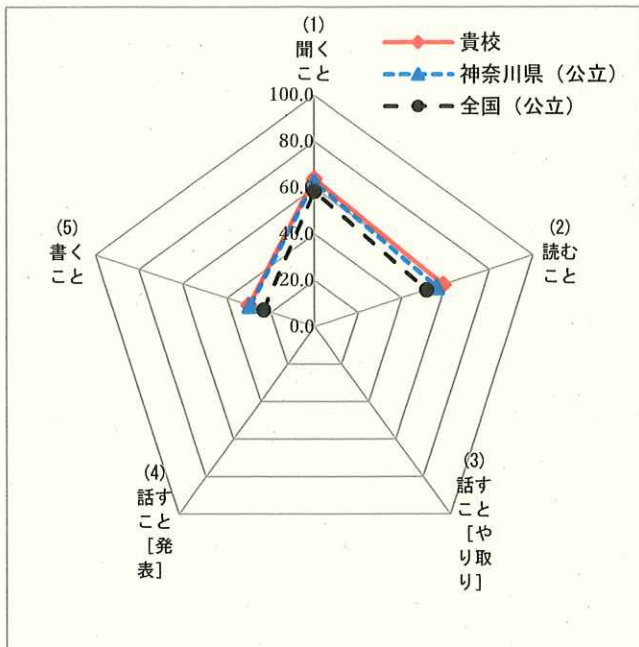
学習指導要領の領域では、「数と式」「図形」に関する事項については全国の平均よりも2ポイントほど高い数値を示している。一方で「関数」「データの活用」に関しては、全国の平均を3～5ポイントほど下回っている。「思考・判断」の力は全国平均を上回っているが、「知識・技能」の力が弱い。

「知識・技能」の定着を図ることで、基礎力を高めていき数学に対する苦手意識をなくしていくこと、また自身の考え方を他者に説明することや、日常生活の出来事

データをもとに分析し、考察することで「思考・判断」の力を伸ばしていくことが学習の目標としてあげられる。

【英語】 (話すことは別で分析されています)

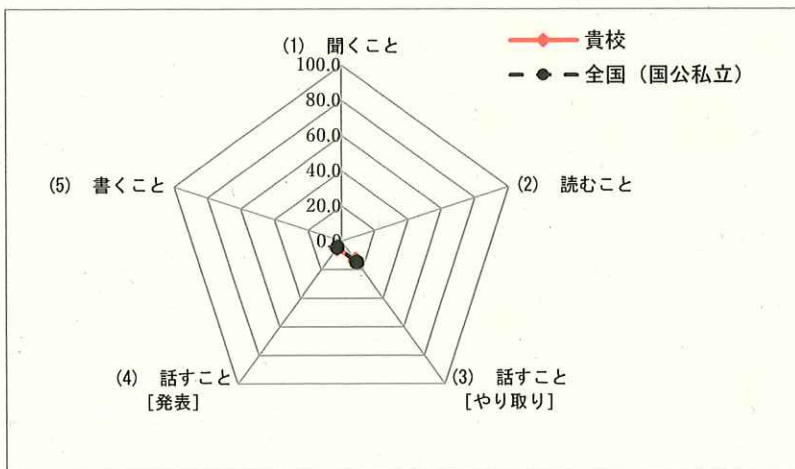
分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			貴校	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体		17	52	50	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	63.9	62.5	58.4
	(2) 読むこと	6	58.7	55.7	51.2
	(3) 話すこと [やり取り]	0			
	(4) 話すこと [発表]	0			
	(5) 書くこと	5	30.1	29.5	23.4
評価の観点	知識・技能	9	59.2	56.6	51.5
	思考・判断・表現	8	44.2	43.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	61.3	59.1	54.8
	短答式	3	38.1	37.9	30.1
	記述式	2	18.1	16.9	13.5



全国平均との比較では、ポイントが高い状況である。また、神奈川県と比較しても若干上回っている。その内容として顕著なのは、授業の中で、即興で英語を話すことを繰り返すことの実践を繰り返すことで、英語を使って表現する姿勢が培われていることが挙げられる。しかし、今年度導入された「話すこと」調査では、全国に比べ若干平均値を下回った。書くことに対してはポイントは比較的高い位置にあり、知識・技能を活用しての表現力は高いと言える。授業への取り組みは非常に前向きではあるが、活動内容として、大勢のまで英語で伝えていくということに関しては、自信をもって取り組むべき課題であり、英語による質問に英語で応えるという今まで以上に実践的な学習を積極的に取り入れることで、思考力や判断力を磨き上げることにつなげていくことも目標としていきたい。

【話すこと】

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)*	
			貴校	全国(国公立)
全体			12	12.4
学習指導 要領の領 域	(1) 聞くこと	0		
	(2) 読むこと	0		
	(3) 話すこと [やり取り]	4	13.7	14.5
	(4) 話すこと [発表]	1	4.6	4.2
	(5) 書くこと	0		
評価の観 点	知識・技能	3	14.4	13.9
	思考・判断・表現	2	8.1	10.1
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	0		
	短答式/口述式	3	14.4	13.9
	記述式/口述式	2	8.1	10.1



話すことの調査に関しては、正答率が低いものとなっている。質問に対しての回答はコミュニケーションとしては成立しているが、文法的な正しさに関しては、書くことよりも確さに欠ける面がある。日頃より、今まで以上に文法や語彙に注意したうえで言語活動を継続させていくことが目標となるであろう。

【生活・学習意識調査】

○生活習慣・学習時間

- ・生活時間については、規則的な生活を送れている生徒は多い。また、毎年調査において余暇の時間にネット環境を使う時間は、全国平均を下回っていることは、学校の特徴として挙げられる。
- ・家庭で計画的に学習をしていると回答している生徒の割合も多い。
- ・学習面においては、学校外で塾や家庭教師（ネットの利用も含む）を活用している生徒の割合は高く、また、そこでの学習内容については学校の予習復習だけでなく、より進んだ難しい内容を学習している生徒は多い。

○自分についておよび友人との関係

- ・自己肯定感に関する項目については、若干全国平均上回っている結果が数値で示された。
- ・夢や希望をもつことや、他者に関わっていく姿勢についても前向きな数値が示されている。
- ・「学校生活は楽しい」と回答している生徒のポイントは、全国平均よりも大きく高いものを示した。

<学校としての今後の取組について>

意識調査の中で、肯定的な回答をしている生徒が全員ではありません。消極的な回答をしている生徒の実態をより丁寧に見守り、寄り添う指導をしていきます。ICT機器の利用状況において、本校では、全国平均よりもはるかに高い数値が示されました。今後は、個に応じた学習の内容や方法、他者との対話や学び合いで生まれる新たな知識や発見が連続してなされるように教育活動を展開していくことで、自ら課題を設定し、解決を図っていける人材を育てていきます。その役割を学校が担っていることを十分に意識しつつ、保護者の皆様方と協力をしながら、地域の方々からの支えもいただきながら、子どもたちがより充実した学校生活を送れるようにしていきます。今後ともよろしく願いいたします。